

研究課題		大学アカデミック・ライティング教育における学習動機に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は大学アカデミック・ライティング教育における学習者の学習動機とパフォーマンスの関係解明を目的とする。初年次教育を中心に大学におけるライティング能力育成の必要性が高まっている。一方で、日本人学生の多くは、ライティングに苦手意識をもっており、また大学入学以前に論理的でまとまりのあるレポートを書いた経験も少ないのが実情である。今後、大学におけるライティング教育を分野横断で、効果的なものにする上で、学習者のライティングへの苦手意識を低減し、モチベーションを向上させる工夫は重要である。本研究では、日本人学習者が、アカデミック・ライティングをより効果的に習得するための動機づけについて先行研究を中心に調査する。
	研究の結果	日英のライティング教育研究を概観した結果、大学ライティング教育では、基礎学力の不足した学生、苦手意識の強い学生、学習意欲の低い学生など、多様な学習者に柔軟に対応した指導・支援の方法が求められている。ライティング指導を考える上では書き方などの技能面だけでなく、学習者の情意面、とくに学習態度の育成が重要である。ライティング活動を通じ、学習者は自己やライティングに対する認識を変容させ、自己規律や目標達成のための方略を獲得していく (Perkins, D. et al., 2000)。自己調整学習理論に基づく研究においては、自己効力感や内発的価値、自己調整が文章作成の動機づけを高め、パフォーマンスに正の影響を与えることが示されてきた (Zimmerman & Bandura, 1994 など)。大学におけるライティング教育を成功させるうえで、多様な学習者の学習態度や発達段階を把握し、自律的な学習態度の育成に向けて指導・支援することが必要である。
	研究の考察・反省	ライティング・パフォーマンスを高めるうえで、文章技能や型の習得にとどまらず、自律的な学習態度の育成が重要であることが先行研究により検証されつつあることが分かった。一方で学習態度と、ピアレビューや自己文章評価など実際の活動の関係はまだまだ十分に明らかにはなっていない。これまでの研究では、学生は一群としてまとめられ、ライティング指導やピア活動の効果が検討されてきた。教室には多様な学生がいることを考慮に入れたとき、ライティング・パフォーマンスや学習態度で学習者を類型化し、タイプごとに、どのような特徴と傾向があるのかを明らかにする必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所		※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 今回の先行研究レビューと、大学生へのライティング意識アンケートの分析結果をもとに、『リメディアル教育研究』に論文を投稿予定である。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		